

T「世話を忘れると死んでしまうかもわかんないよ、だいじょうぶかい」

C「やります。忘れないようにがんばります」
飼育小屋の掃除や当番の仕事を他のメンバーと一緒にやるようになった。しかも自分の当番でない日まで世話をしようとしている姿さえ見られるようになった。

● 学校行事での役割をもたせて

運動会の係活動をきめる時、自分から進んで準備係を希望した。一時途中ややだらけたところがあったが、係の先生のはげましで会の終了までみんなと協力してやりとげることができた。

T「準備係は忙しくて大変だったろう」

C「それでもなかったよ。自分でやりたかった係だから」

T「準備物が重かったり、大きかったりして持ち運びでけがしなくてよかったね」

C「5年のB君は、跳び箱で手をはさめたけどぼくはだいじょうぶだったよ」

T「ゆっくり競技が見られなくて、途中いやになったんじゃないかな」

C「おもしろい競技だどつい応援してしまって準備を忘れそうになりました」

T「最後までよくやりとげたね。ほんとうにごくろうさま」

C「……（にこにこしている）」

8. 考察

両親が養育態度の問題に気づき、叱責、命令、禁止などをひかえ、承認を多くした本人への働きかけは、本人の問題行動の軽減に役立ったと思われる。特に父親の積極的な働きかけは、本人に自信さえ与えている。

仕事を最後まで行えるようになったことは大きな進歩であった。仕事の途中で、本人の行動を認め、励ます、学級全員の前で仕事ぶりを紹介するなどの教師の肯定的な働きかけが本人の気持ちを安定させ、積極的な行動に結びつけたと考えてよ

い。

教師の肯定的な働きかけはまた、本人との信頼関係をつくりあげた。これによって、本人が学級担任の個別的な指導を素直に受け入れる心情をつくり、学習意欲を向上させることにもつながった。

また、座席を学習面で本人に対して援助できる子や本人が望んでいる子などを特に配慮して、自由な中に教師の意図の強く入った編成を行うなど、友人関係の調整も図った。次の表は、学級のソシオメトリーの変容である。

男女	月	被選択	被排斥
男子	5月	5	5
	10月	8	2
女子	5月	0	4
	10月	2	1

被選択が増え、被排斥が減少した。これは、本人の行動がクラスメートに迷惑をかけることが少なくなってきた結果として理解してよいと思われる。

学級集団からの承認は、さらにその他の活動に、意欲的な取り組みとなって表われてきている。理科や体育の時間など、クラスメートからリーダーとして推され、積極的に活動するようになってきたのである。

学級担任は、両親へ医学的な診断を勧めたが、両親はまだその必要性を認めなかったために、無理をすることは避けた。しかし、今後の指導援助には医学的な診断及び治療が、是非必要と思われるので、両親の理解を得る働きかけが大切である。